



学校だより7月号

【学校教育目標】「力を合わせ 笑顔が光る日限の子」

令和3年 6月30日

横浜市立日限山小学校

〒233-0015

港南区日限山二丁目 16番1

TEL 045(841)6561

「実物」に触れて感じること

副校長 武石 博行

朝、子どもたちが登校してくる前に、階段や廊下の窓を開けて換気を行います。校舎内に吹き込むこの時期の風は、昼間の蒸し暑さと比べるととても涼しく、爽やかで心地のよいものです。

校舎内を巡回していると、子どもたちのいない廊下や教室からでも、各学年の学習内容を垣間見ることができます。

2年生の廊下には、「手をあらってからさわってね」と書かれた箱があります。中には、学年の畑で育てたキュウリやナスが置いてあります。獲れたての野菜に触れた子どもたちはどう感じたのでしょうか。キュウリに触れて「うわ、チクチクする。」と驚いたり、ナスのつやつやして柔らかい実を気持ちよさそうに触ったりする姿が思い浮かびます。どれも食卓に盛り付けられた料理からでは気づけない、新しい発見があったことでしょう。また、2年生はそれぞれの植木鉢でも野菜を育てています。子どもたちは収穫のたびに家に持ち帰ってよいそうです。自分の手で収穫した野菜は、きっとその子にとって特別な味になるのではないのでしょうか。



3年生の廊下には、「おや、卵の様子が・・・」と書かれた箱があります。箱の中をよく見ると、小さなモンシロチョウの幼虫がキャベツの葉についています。卵から幼虫、サナギ、そしてチョウになるまで、みんなで観察をしているそうです。後日、3年生の子どもたちに聞いてみると、無事チョウになって飛び立っていったとのこと。空に舞い上がったチョウを、子どもたちはどのような気持ちで見送ったのでしょうか。その時の子どもたちの表情を想像すると、思わず笑顔になってしまいます。

5年生の教室では、顕微鏡が捉えたメダカの卵の映像がテレビ画面に大きく映し出されています。実際の大きさは1mm程度ですが、テレビ画面を通じて心臓の動きや血液の流れがわかり、命の誕生、そして成長の様子をはっきりと確認することができます。子どもたちはこの後学習する「ヒトの誕生」で、このメダカの卵と比較しながら、更に学習を深めてほしいと思います。



今年度は、「GIGAスクール構想」に基づき子どもたち一人ひとりにタブレット端末が配られました。教室でもインターネットを使用することができ、これまで以上に手元の操作で映像を基に様々な学習ができるようになりました。タブレットの画面上で多くの情報が手に入るようになり、とても便利になったと思います。しかし、だからこそ実物を見たり触れたりすることも、今まで以上に必要になってくるのではないかと考えます。子どもたちが実物に触れながら体験できる学習をこれからも大切に、そこから多くのことを感じ取ってほしいと願っています。